

【中学校国語】（※「上回っている」とは、全国平均に比べ+3.1ポイント以上）

本校の概要

【領域】

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率

・全国平均に比べ、上回っている。

□「書くこと」の平均正答率

・全国平均に比べ、上回っている。

□「読むこと」の平均正答率

・全国平均に比べ、上回っている。

□「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率

・全国平均に比べ、上回っている。

今回の調査における課題

●封筒の書き方で、字数を整え、文字の大きさ配列などについて理解して楷書で書くこと。

●各領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習をさらに進めていくことが必要である。

改善の方向

○手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くような学習場面の工夫を図る。手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが大切である。

○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っている。現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・課題探究的な手法を通して、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うなど、基礎的な知識においても定着が見られる。

・記述式問題に対する無解答が極めて少なかった。国語科に限らず、各教科において書くことが重視されており、記述に対して意欲的に取り組んでいる。

【中学校数学】（※「上回っている」とは、全国平均に比べ+3.1ポイント以上）

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□「数と式」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

□「図形」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

□「関数」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

□「資料の活用」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

●1つのグラフ上の2点のy座標の差を、事象に即して解釈し、正しいものを選ぶことができる。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

●各区分及び領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習をさらに進めていくことが必要である。

○具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断することができるような学習活動の工夫を図る。

○資料の傾向を捉えて、批判的に考察し判断した理由を、数学的な表現を用いて説明できるような学習場面、学習形態の工夫を図る。

○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っており、中学校と指導計画が異なっている。現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・本校の授業内容を考慮すると、「活用」に視点を当てた授業が効果的に「知識」の習得につながっていると考える。従来の「習得→活用」ではなく、「活用→習得」のプロセスを取り入れることによって、主体的な学習活動の実現が図られている。

【中学校英語】（※「上回っている」とは、全国平均に比べ+3.1ポイント以上）

本校の概要

【領域】

□「聞くこと」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

□「読むこと」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

□「書くこと」の平均正答率
・全国平均に比べ、上回っている。

今回の調査における課題

●聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。

●まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる。

●書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。

●与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

改善の方向

○実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていく学習活動の工夫を図る。

○社会的な話題（自然環境問題や平和問題など）についての題材を扱う工夫を図る。

○得られた複数の情報を取り出して総合的に判断し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現する学習活動の工夫を図る。

○文章形式を理解して書く言語活動を行う工夫を図る。

【参考】

□「話すこと」領域

●適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる。

○適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答できる言語活動の工夫を図る。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・課題探究的な手法や、コミュニケーション活動を重視した取り組みを行い、一定の成果を上げている。今後も6年間の連続的な学びを行い、現行の取組を継続し、さらに発展させていく。